

# 観光・農水産関係者と連携した観光MaaS推進事業（域内交通および二次交通整備）

応募様式A

長崎県平戸観光振興・MaaS共創プラットフォーム

## 事業の基礎情報

実施主体	一般社団法人 平戸観光協会
事業実施地域	長崎県平戸市 長崎県大村市（長崎空港-平戸市までの主要都市）
共創の種類	官民共創 ・ 他分野共創
他分野共創の種類	医療・介護・福祉 ・ 子ども・子育て ・ 教育・スポーツ・文化 ・ 商業・農業 ・ 宅配・物流 エネルギー・環境 ・ 地域・移住 ・ 金融・保険 ・ 観光・まちづくり その他
共創パートナー	平戸市、平戸市内タクシー・貸切バス事業者、株式会社Will Smart、日本航空株式会社、株式会社狼煙、一般社団法人全国農協観光協会、大村市
運行形態	①交通モードはデマンド型（事前予約制）交通手段。平戸市発地着地の長崎空港の送迎および平戸市域内観光移動を対象とする。②実証においては道路運送法78条2号・自家用有償旅客運送における登録を予定している。事業化段階においては検証結果を踏まえて道路運送法78条3号や事業者協力型自家用有償旅客運送等を考慮する。
運行主体	一般社団法人 平戸観光協会

## 現状・課題

○人口減少とコロナ禍により交通利用者が減少。交通事業者の経営環境が厳しい。バス路線代替、スクールバス一般利用者混乗等の対策を進めてきたが、路線バス減便や労働力不足や高齢化の影響を受けタクシー事業者1社廃業。北部地区のタクシー配車数は平日日中夜間2台、週末夜間3台の稼働であり、移動手段が不足している。平戸市の高齢化率は42.15%でありドライバーが年々減少し、移動は地域住民の支えあいに頼らざるを得ない。

○長崎県は世界文化遺産を有し、平戸は異国情緒ある歴史的な街並み、世界に誇る農水産業、美しい自然景観を有する。また、平戸城の城泊を中心にその城下町の空き家を改修し地域一帯をホテル化するアルベルゴ・ディファーズ（分散型ホテル）を推進。歴史探訪の旅、ガストロノミーリズム、アドベンチャーリズム等を展開するが域内移動が課題となる。長崎空港（大村市）から平戸間には直通運行する交通手段がないため訪問者の目的地選定に影響が想定される。

○ドライバー不足と利用者減少が課題である。観光資源活用し供給量増加が必要。地域振興を地域交通を両立させるスキームが求められる。観光MaaSにより“交通手段の供給量増加”、“利用者増加”、“デジタルを活用した運行管理や予約の仕組み”、“データ活用した事業検討”の検証が求められる。

地域公共交通計画への位置づけ（位置づけ予定を含む）

網計画に記載有。交通計画を作成中。協議会報告は6月末に実施。

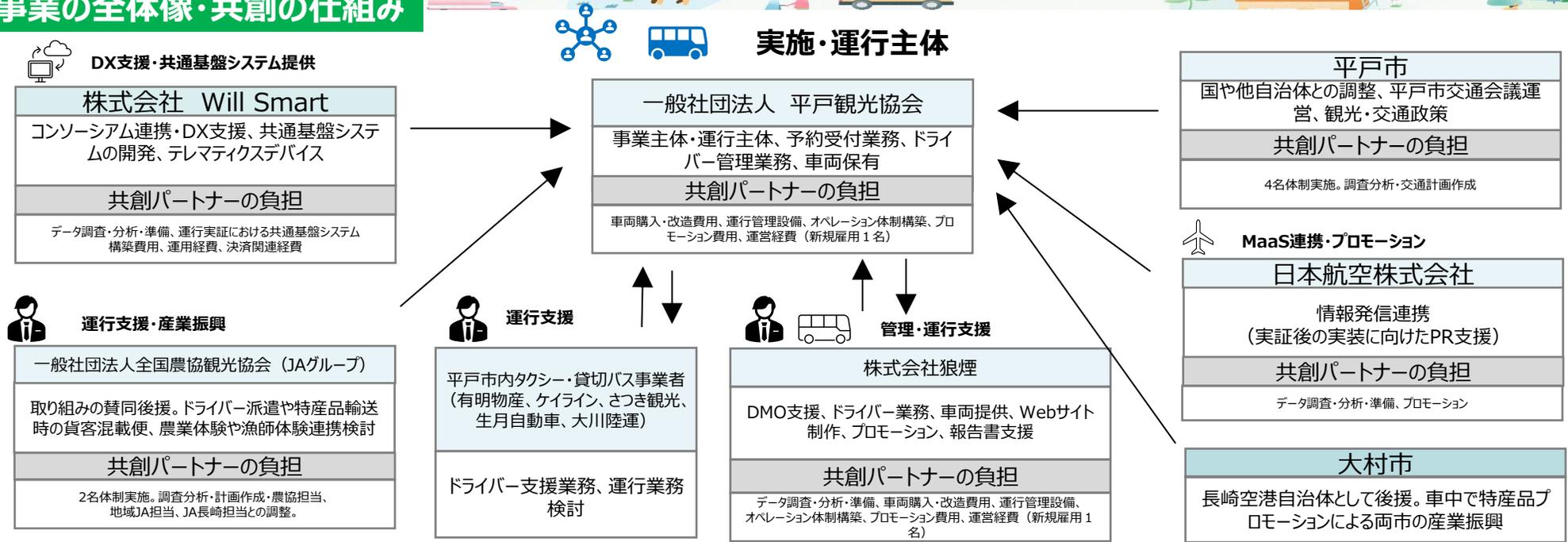
運輸局・運輸支局への事前相談

九州運輸局、長崎運輸支局

令和5年度共創モデル実証プロジェクトの補助有無

無

## 事業の全体像・共創の仕組み



## 取組の概要

### (事業の概要)

地域関係者と連携した新しい移動手段を創る。デジタルを活用し生産性向上・利便性向上を目指しデータ活用した事業検証を行う。平戸観光協会が運行主体となり交通・観光・農水産事業者をドライバー候補とする移動手段により供給量を増やす。長崎空港の二アクセスの改善や平戸の市内交通を整備することで需要を喚起し地域交通の維持を図る。本実証では“ドライバー不足解消の体制とシステム”“利用者増加のプロモーション”“デジタル技術を活用した生産性や利便性向上”“データ活用した事業検証・EBPM推進”の4つの観点で検証し事業化に繋げる。

### (地域の関係者との連携・協働)

城下町、農山村、漁村宿泊体験による地域回遊と長期滞在を目的とした地域一帯をホテルとする取り組みを進めている。観光関係者、農・水産関係者をドライバー候補とし持続可能な移動手段を供給する。長崎空港からの移動車中では平戸市・大村市の観光資源や特産品をプロモーションすることで観光・産業振興を図る。全国農協観光協会が地域JAグループと調整し農業体験や漁師体験プログラムの連携、生産物輸送等の貨客混載便を検討する。

### (地域公共交通ネットワークや既存交通との関係性)

交通協議会の地元事業者、エアライン事業者も参画する。空港所在自治体大村市と連携する。交通事業者は長距離移動時等のドライバー派遣を行う。平戸市交通事業者は得られたデータをもとに平戸市とともに事業検討を行う。日本航空は移動ワンストップ化による利用者増、利便性向上、MaaS連携につなげる。



## 取組の詳細

### （地域交通にもたらされると想定される効果）

- 地域資源活用によるドライバー不足の課題解消。持続可能な新たな移動手段整備により供給を増やす。
- 域内移動の充実化。ダイレクトアクセス整備による二次交通の課題解消による**利用者のアクセシビリティ向上**。
- デジタル技術活用による**交通事業者の生産性向上と利用者の利便性向上**。
- 利用実績データから、料金などの**マーケティング分析、事業化精度の向上**。交通政策・EBPM活用

### （地域全体に及ぶと想定される効果）

- 観光、農水産業と連携し**交通と地域振興策の両輪推進**。（特産物混載、農業・漁業体験との連携）
  - 広域MaaS実現、行政政策に及ぶ波及効果**（域内観光資源をつなぐ交通手段具現化等）
  - 空港からの二次アクセス課題解消による長崎空港価値向上。空港を起点とした**市内・県下の移動に伴う経済効果**。
  - 観光目的以外の移動需要への波及効果。地域交通弱者の利用を妨げるものではなく**地域住民にも波及する**。
- ※特に以下の効果が想定される場合は、その項目に○をつけ（複数選択可）、当該内容について上記に具体的に記載してください。

### （実証で目標とする数値）

域内移動サービス車両数増加：  
日中13台⇒15台、  
夜間5台⇒7台増加。

空港利用移動手段増加：  
（車内での旅中情報発信、）：  
月1-2件⇒4件

観光利用における移動満足度向上、  
タクシープラン旅行商品の造成。

○	新たな移動手段の創出や各種送迎への地域住民の混乗などによる、地域住民の利便性向上	○	貨客混載や各種送迎の公共交通への集約など、交通事業者や地域の関係者の生産性向上
○	乗降データを取得する等、データを活用して、事業検証ができる環境整備	○	通院者や商業施設の利用者に関する情報など、他分野の移動需要に関するデータの利活用

### （補助事業実施後の予定）

- 令和6年度は自家用有償旅客運送の制度を活用しオペレーション検討や体制検討を行う。繁忙期対応のため令和7年も継続する。平戸市交通計画へ反映する。令和7年度に予算措置を行い本格事業化する。
- 平戸観光協会事業は令和7年にエリア拡大する。福岡空港・佐賀空港利用者や地域住民利用も検討する。令和8年に事業化。観光協会の事業拡大と財源強化につなげる。
- 実証結果は長崎県や自治体に広く共有する。類似課題を有する自治体も多い。九州MaaS等も活用し横展開を図るための広報活動・事例展開を進める。



資金面	平戸観光協会、平戸市、株式会社Will Smart、日本航空株式会社、株式会社狼煙、一般社団法人全国農協観光協会が事業資金拠出。
人材面（運転手の確保）	ドライバーは平戸観光協会・株式会社狼煙で2名採用。全国農協観光協会、地域JAや交通協議会に参加するタクシー・バス事業者もドライバー募集に賛同。ドライバー募集・マッチング機能を具備したドライバーWebサービスを提供する。